支援者としての醍醐味
～私がこの仕事を続ける理由～

報告者　お好み焼き こなこな　　堀米美紀
KuRuMiX　　齋藤美穂子

１、はじめに（今テーマの趣旨）

昨年度の作業所学会では、日々の支援を通して感じている葛藤を報告してもらいました。そこから現状を見つめなおし、課題を明らかにし、自らの言葉で外部に発信することまでの一連の過程そのものに意義があると考えました。

具体的には、2名の方に葛藤も含めた実践報告をしていただき、参加者とともに考える機会とし、個々の支援の質の向上につなげるとともに、所属法人全体の活性化につなげていく場としました。

そして今年度は、上記のような職員の葛藤や困難さを乗り越えるその先には、私たち支援者が働き続ける本質的な理由があるのではないか、と考えました。お互いに、うまくいかなかったことや成功体験などを語り合うことこそが学びの機会となり、葛藤もやり続ける根拠の一つと捉えなおすこと、それがこの仕事の大きな醍醐味ではないかと思います。

そこで、今回のテーマを「支援者としての醍醐味」とし、葛藤や苦しさと向き合い続けたからこそ見いだせた、支援を通した楽しさ・やりがい・人と人が関わり合うという事など、個々が感じているこの仕事における醍醐味に着目し、発表してもらいます。参加者の皆さんとの意見交換も踏まえて、改めて“私がこの仕事を続ける理由”を参加者それぞれが振り返り、まだ感じたことのない楽しさや自分とは違う楽しさの捉え方に触れることで、改めて明日からの「支援者としての楽しみ」につなげていきたいと考えます。そして、このモチベーションこそが、支援の質の向上には欠かせない要素であると考えます。

２、実践報告

①　「勤続10年」その成果と気付き

前々年度からこの分科会にて発表の機会を頂き、自身の中での支援・法制度等に対する葛藤や、社会情勢の変化の中で悩みながらも進んできたことを報告させて頂きました。そして『はたらく』ことを支える中で何を大切にしていくのか、思いを共感し、それを次の支援へと体現するための「答え合わせの場」をこの分科会で得ることができました。

そうした様々な葛藤の中で、気が付けば支援し続けている利用者の方も勤続10年を迎え、そして私自身も勤続10年が経過しました。この10年間で私自身の立場も新卒で知識の少ない新人から、事業所のサービス管理責任者を勤める役職へと変化し、利用者の方々と共に積み上げていった成果があります。そしてその成果を、自身の法人内にて事例報告をした際に見出し、実感することに繋がる出来事がありました。

本分科会の発表では、実際に報告した「環境がもたらす本人ニーズへの影響」という事例を通し、新卒で入社した1年目の自身の視点から10年間に渡る支援の変化や、ご本人の成長、気づき等を報告したいと思います。10年と言う歳月の中でご本人の希望の実現に向けた目標達成は勿論のこと、その支援を通して自身の成長やキャリアに繋がった自分への還元を「支援者としての醍醐味」として発表します。

②　ともに学び成長できる喜び

今回「支援者としての醍醐味」というテーマで発表の機会をいただき、自らの 10 年間を振り返りました。

入社当時の私は、福祉を学んだこともなければ、福祉職の経験もなく、とまどいと不安の日々を過ごしていました。自分自身の役割がわからず、日々の支援にやりがいを見いだせず、勝手に居場所のなさを感じていたように思います。

そうした思いを抱えながらも、様々な人との出会いや利用者との関わりを続けていく中で、いつしか自分の気持ちに変化が生まれていました。利用者や他の職員と「出来た」を共有できることに喜びを感じるようになったのです。また、他者の意見を聞くことや気持ちに寄り添うことを意識出来るようになりました。上手くいかなかった時には自分自身を振り返り、自分自身を知る事も大切だと気が付きました。

未経験だったからこその葛藤や苦しみ、利用者や職員とともに学び、成長してきた 10 年間を振り返り、今私が「支援者としての醍醐味」として感じていることを発表します。